竹田陽一の独立起業物語

【マル秘メルマガ】より　　１通目その２

◆１．１回目の訪英では見つからなかった

1985 年 12 月 12 日、関係者から聞いていた駅で降り、私と妻の２人は目指す墓地の入口にタクシーで着きました。
１ｍ程の高さがある草をかき分けながら、墓に刻まれたフレデリック・ランチェスターの字を探し始めました。墓地はとても広い上に深く茂った草がじゃまになって、ランチェスター先生の墓を探すのはとても大変です。
１時間近く探しましたが、墓地全体の２割も探しきれません。

「このやり方では　ランチェスター先生の墓を見つけ出すことはできない。ランチェスター先生の資料を集めているコベントリー大学図書館の館長ジョン・フレッチャー氏にお願いして、正確な墓地名と墓地の中のどの辺りにあるか、これを調査してもらうしかない。」
そう思いながら流れ出る汗をふきふき墓地の出口に向かいました。

道路に出たところ、帰ったはずのタクシーが止まっていました。
予約はしてなかったのに、親切な女性ドライバーは私達夫婦のただならぬ様子を察知してか、頃合いを見計らって迎えに来てくれていたのです。
その女性ドライバーは気落ちしている私達夫婦を見た後、私の肩にそっと手を当て「お墓は見つかったか」と聞きました。
私は「残念ながら見つからんやった。駅まで送ってくれんね」と、九州弁で返事をしました。
女性ドライバーは「それは気の毒やったねー」と言った後、私達を駅まで送ってくれました。

１回目の訪英ではランチェスター先生の墓は見つからなかったのですが、ランチェスター先生の１番下の弟ジョージの妻で、イギリス南西部に住んでいるメリーさんと会えたのは収穫でした。
メリーさんの家に着いたのは夜の 10 時過ぎだったので、私達夫婦と通訳の３人はメリーさんの家に泊めてもらいました。
そのときの様子は今でも思い出します。

イギリスから帰国した後、どうしてもランチェスター先生の墓参りをしたかったので、アメリカに１年間留学して英語ができる長女の友子に頼み、コベントリー大学のジョン・フレッチャー氏に「お墓があるところを探してくれませんか」と手紙を出させました。

それから数ヵ月後、フレッチャー氏から「ランチェスター先生の墓があるはっきりした場所が解かった」という知らせが届きました。
後で解かったのですが、あちこちの市役所に問い合わせてようやく墓がある場所が解かったというのです。
その場所はロンドンの南約 40km の「ヘイワーズ・ヒース駅」から、タクシーで約 10 分ぐらいの所です。

しかし私はそのとき１年間に 300 回の講演をしていて、スケジュールに余裕がなかったことと、前回のようにカラ振りになったのでは困るので、妻と長女の２人に下見に行かせ、詳しい地図を書いてもらうようにしました。

妻と長女の２人はランチェスター先生の墓参りを済ませたあと、ランチェスター先生のお墓の所在地を探すのに、ひとかたならぬ協力をしてもらったフレッチャー氏にお礼を言うため、コベントリー大学の図書館を訪ねました。そしてランチェスター先生の資料収集を目的に、30 万円を寄付しました。　　（続く）

Lanchester　ランチェスター経営（株）
〒810-0012　福岡市中央区白金 1-1-8　チュリス薬院 301
TEL　092-535-3311　FAX　092-535-3200
メールアドレス customer@lanchest.co.jp　HP　https://www.lanchest.com